

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1195100092		
法人名	株式会社ユニマツ リタイアメント・コミュニティ		
事業所名	新座北野グループホームそよ風		
所在地	新座市北野1丁目5番16号		
自己評価作成日	平成28年2月22日	評価結果市町村受理日	平成28年3月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社シーサポート		
所在地	埼玉県さいたま市浦和区領家2-13-9		
訪問調査日	平成28年3月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

★ ひとりひとりの入居者様の日々の健康状態を把握。地域の医療機関、往診医と連携を取り合いご入居者様へ安全・安心してご利用いただける様、心がけている。

★ 介護職員の離職率が低く、入居時から継続して入居者様の状態を把握することが出来ている。また、市内に同法人のグループホームがあり、そちらと連携を密にとり情報共有を行っている。

★ 地域のボランティアの方を招き、地域に根付いた開かれたセンターを目指している。イベント開催や毎月行事を開催しご入居者様へ四季の変化を感じていただく様、心がけている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

●「地道な努力を惜しまない管理者と職員」により日々の支援がなされている。真面目にコツコツと支援を続け、地域の方々にとって最適なホームとなるよう運営に取り組んでいる。

●在籍の長い・経験豊かな職員による丁寧かつ細やかなケアが実施されている。「形態により食事を楽しめなくなっている利用者」のために新たな調理法を学ぶ意向を持つなど利用者に資するモチベーションの高さには敬服の意を表したい。

●ハンドベルや唄などボランティアの来訪には積極的な受け入れがなされている。とともに地域とのあ住民からの質問に答えるなど地域に資する新たな活動がなされている。今年度は地域機関の主催による見学会が実施されており、近隣住民の方々との新たな交流が始められている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員の目にとまりやすい場所に理念の掲示がされており、ミーティング等で再確認する機会がある。	「理念および職員規律の掲示」や「コンプライアンス遵守の案内」により職員の啓発に努めている。「地道な努力を惜しまない管理者と職員」により地域の方々にとって最適なホームを目指している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	外出や町内会へ買い物に行く機会をつくっている。町内会のイベントにも参加。地域のボランティアの方をお呼びし、交流をもつ機会をもっている。	地域機関の主催による見学会が実施されており、近隣住民の方々に施設を理解してもらう機会を得ている。住民からの質問に答えるなど地域に資する新たな活動がなされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	センターの行事を中心に、地域の方々に参加していただけるような内容を盛り込み、気軽に参加していただき、入居者様と交流をもつ機会をもっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に地域運営推進会議を開催。活動報告や現況をお伝えしている。また、会議での話し合いをサービスの向上に活かせるようにしている。	運営推進会議が定期的にて開催されている。都合で参加できない家族には、手紙にて内容を伝えるよう努めている。	出席者の方から自宅でのお花見にお誘いをいただいております。天候と利用者の健康状態に配慮して実現されることが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の職員から情報を得たり、相談や報告を必要に応じて行っている。	グループホーム事業者の連絡会発足に伴い、行政および他事業者との連携に努めている。今後も継続した参加により関係構築と他ホームの良いところを取り込んでいきたい意向をもっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠については、入居者様の状況やセンターの立地環境を加味し、施錠を行っている。センター内で身体拘束についての研修を定期的に行い、身体拘束にあたらぬケアに留意している。	事業所内の委員会において職員への周知に取り組んでいる。身体拘束・高齢者虐待・プライバシー保護についても事業所内研修を実施している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の大小に関わらず、日常生活の中で常に意識して介護にあたり、センター内で定期的に虐待防止の研修をおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	青年後見制度を利用されている方がご入居されている。 また、センター内で権利擁護に関する研修もおこなっており、市などから情報の提供もある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は落ち着いた場所と時間を設定して書類の読み合わせを行い、ご理解をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や遠方に住んでいらっしゃる、なかなか面会に来られないご家族様へ定期的に連絡させていただき、意見やご要望を取り入れる様、心がけている。	面会や電話でのやりとりを通してコミュニケーションを図るよう努めている。遠方に住んでいてなかなか訪問が難しい家族に対しても安心してもらえるよう取り組んでいく意向をもっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングやカンファレンスを行い、職員が気軽に意見交換が出来る環境がある。	フロアおよびホーム全体においてミーティングが月に1度開催されている。またキャリアパス制度を導入し、職員のモチベーションと啓発に対して法人全体で取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に各職員の人事考課を行っている。また、法人としてのランキングを掲示し向上心を持って働ける環境を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内外の研修への参加や資格取得への相談・協力体制ができている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人近隣センターへの業務支援を通して、スキルアップできる様、支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談や入居時調査を丁寧に行い、ご本人及びご家族様の不安やご要望を聞き、医療関係機関などとの連絡調整を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	特にご入居一カ月はご本人様及びご家族様との連絡を密にとり、ご本人様の不安が軽減する様、努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、ご家族様のお話をしっかり受け止め、不安や困っている事を見極めて出来る限り、ご本人様に安心して生活いただける様、支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	面会や外出などは自由にしていただける様、支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人様がご自分でできる事は行っていただき、残存能力の維持に努め、ご入居者様が達成感を味わう事が出来る様、支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出・散歩の途中で、以前ご近所に住んでいたという知人の方から、よく挨拶される事がある。 また、定期的なボランティアの来所があり、馴染みの関係がもてる様、支援している、	ハンドベルや唄などのボランティアが来訪し、日常に彩りを与えてくれている。遠出が難しい方もすぐ近くの馴染みの商店で買い物を楽しめる環境がある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の会話があずんでいる時は見守りを行い、みなさまで楽しめる時間をご提供。安心できる環境を整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院先へお見舞いや入所先への面会をさせていただいたり、関係者との情報交換がおこなえる様にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様、ご家族様との話し合いで、ご本人様の思いをしっかりと受け止められる様、支援している。	入居時および定期でのアセスメントを通して利用者・家族の意向の把握に努めている。在籍の長い職員への信頼が利用者の希望の言いやすさに繋がられている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴やご入居以前の生活環境をしっかりと聞き取りを行い、その方らしい生活が継続できる様、支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方の生活リズムを大切に、居心地のよい過ごし方ができる様、支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にケアカンファレンスを開催し、ご家族様の参加が得られない場合は面会時や電話にてご意向を伺い、介護計画に反映できる様にしている。	モニタリング結果・担当者会議での検討・管理者のチェックとアドバイスをもとにケアプランが策定されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の申し送りや生活日誌・連絡ノートなどを活用し情報の共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様の小さな変化にもする気づき、現状に即したサービスがおこなえる様、ご家族様や関係機関と連携をおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会のお祭り参加や商店へのご買い物などを支援している。行事や外出の際も公共の場を利用する事がある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診についてはご家族様の希望に添って通院や訪問診療を受けていただける様、支援している。	かかりつけ医への通院支援などできる支援に努めている。また薬局と連携し、投薬の誤り防止の取り組みに取り組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご入居されているみなさまへ週二回訪問看護を受けていただいている。個々のご入居者様の変化や新たなニーズを把握し、医療や看護につながる支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご入院の際は定期的な面会を行い、入院先の医師・看護師と情報共有を行っている。また、こちらの訪問医師への連絡・連携を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご意向をお聞きしたり、状態の変化に応じてご本人様またはご家族様との話し合いがもてる様にし、関係機関との連携をとっている。	変化する入居者の状況に応じて家族に対して丁寧な説明に努めている。話し合いを進めながら医療機関・家族からの協力を求め、適切な支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡網の作成や関係機関への通報等、定期的に研修を通じてシュミレーション。緊急時に落ち着いた行動がとれるよう体制を整えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期の消防訓練を行い、災害時の避難場所を共有している。	年に2回の避難訓練を実施しており、水や食料等備蓄の整備にも注力している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の名前は姓で呼びかけ、プライバシーに関する事は他者に配慮しながら行っている。	事業所内においてプライバシーへの配慮についての研修がなされている。法人としても注力しており、職員への指導を徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	買い物外出は定期的にお声掛けし、希望者と行えるようにしたり、入浴はご本人様の様子をうかがいながら、数回お声掛けや時間をおくなど行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	きまったスケジュールはなく、その日の天候や雰囲気などにより外出や日光浴、フロアでの活動を行っていただく様、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お好みの装飾品を身に着けていただいたり、好きな服装を選んでいただける様、支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来るだけ食事作りに参加いただき、ご本人の出来る事を支援している。	利用者の状態変化等により一緒に買い物にでかける機会は減少しているものの、モチベーションの高い利用者に対してはできる手伝いをしてもらうなど積極的に関われるよう支援している。	見た目はそのままに素材をやわらかくする調理を学びたい希望をもった職員がおり、機会の提供や法人からの指導依頼により実現していくことが期待される。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	季節によって水分摂取量に変化をつけたり、日々の食事量を確認している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨きの励行を実施。訪問歯科による口腔ケアを受けていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方の行動をよく観察したり、チェック表を活用して排泄パターンの把握を行っている。適切な声掛け誘導にてご本人様の自立を促したり、失敗が減るように支援している。	時間による誘導によりなるべくトイレで排せつできるよう取り組んでいる。便秘への対処についても担当医師と相談しながら支援がなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜を多く取り入れた食事や水分摂取の声掛けを行っている。極力、薬を使用せず自然排泄できる様支援。主治医や訪問看護との連携をとっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人様の好まれる時間帯やタイミングをみはからって、楽しく入浴いただけるように支援している。	重度化によりシャワー浴や清拭等利用者の状態に合わせた入浴支援に取り組んでいる。訪問看護事業者による足浴なども利用しながら清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	20時ごろ居室に入っただが、眠る時間は個人に任せている。また、テレビが見たいひとにはリビングなどでも自由に見れる環境を整え、日中もお昼寝ができるように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診記録やお薬に関する説明書をいつでも確認できるよう管理・保管している。また、服薬時のミスが起これば複数職員の確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	台所仕事、テーブル拭きやほうきがけ・洗濯物たたみ、お茶入れなど、出来る方には日常的に行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には散歩に出かけたり、ドライブする事もある。外出を取り入れた行事計画も年に数回ある。	毎年恒例の初詣などで季節の外出行事が計画的に実施されている。車を使用したり、ホームの庭でお花見をしたりとなるべく外での活動が楽しめるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人様の預り金の中から、いつでもご希望に添える様にしている。お小遣い程度の金額をご本人で管理されている方もおり、近くのコンビニではご自身の財布からお支払をしていただく支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけていただき、ご本人様とゆっくり会話を楽しんでいただいている。また、手紙を書いてもらう支援なども行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	障害物となる物を出来る限り取り除き、安心・安全な環境で過ごしていただく様にし、騒音や室温、装飾など環境整備につとめている。	「夏場と冬場」「1Fと2F」での室温や採光の違いについて細やかに管理しながら利用者が居心地よく暮らせるよう配慮に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になれる環境作りや気のあるご入居者様同士で居室を行き来できるように支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具やテレビ、衣類があり、いつでもご本人が使用できる様にしている。	出来る方には職員と一緒に居室の掃除をしてもらっている。また利用者ごとの居室担当職員が大掃除をするなど居室の清潔と衛生が保たれるよう努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活で応戦の安全確保や生活環境の整備につとめている。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	地域運営推進会議を活かした取り組み	2ヶ月に一度定期的開催されている運営推進会議にて地域の社会資源の情報等を共有。	民生委員の方より「ご自宅庭の桜を見に来ませんか？」とのありがたいお誘いの言葉をいただき、入居者様と一緒に近日中にお花見見学を予定している。	1ヶ月
2	40	食事を楽しむ支援	現状、入居者様の状態に合わせ、食事形態を刻みやミキサー食で提供を行っている。食事という楽しい時間を過ごしていただく為に、盛り付けや見た目で食欲が出る食事を提供していきたい。	同法人の複合センター(デイサービス・ショートステイ)には、厨房設備があり、当社の厨房職員が多数勤務している。法人力を活かし、入居者様に喜ばれる調理技術の研修を行っていきたい。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月